

農業技術

リズム

ジャガイモ疫病は、降雨などによる多湿条件下において短期間で発生が拡大し、経済的な被害をもたらす重要病害です。その防除薬剤は種類によって予防効果だけを持つもの、予防効果に加えて治療効果を持つものがあります。安定した効果を得るためには、薬剤の特性を把握し、さまざまな発生状況に応じた薬剤を選択することが重要です。

また、栽培現場では減農薬栽培や生産コスト削減へのニーズが高く、これらに対応するため、農薬の散布回数を低減できる技術の確立や実用的な防除体系の構築が求められています。そこで薬剤選択の基礎資料を得ることを目的として、複数の本病防除薬剤について疫病菌感染後に散布した場合の防除効果を

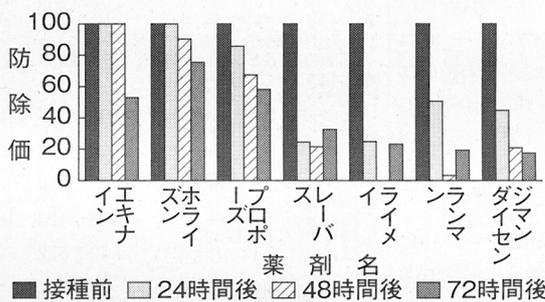
評価しました。本試験には7種類の薬剤を試し、疫病菌接種前、接種24時間、48時間および72時間後に散布して、それぞれの防除効果を調査しました。その結果、試験薬剤は全て高い予防効果を示し、さらにエキナイン顆粒（か

ジャガイモ疫病の薬剤効果

予防と治療の特性や発生状況に応じ選択

りゅう)水和剤、ホライズンドライフロアブルおよびプロポーズ顆粒水和剤では、接種48時間後の散布でも高い治療効果が認められました。つまり、これらの薬剤は、疫

ジャガイモ疫病に対する各種防除薬剤の効果



ジャガイモ疫病に対する各種防除薬剤の防除効果試験概要①1薬剤につき、ポリポットで栽培したニシユタカ10株を使用。試験方法②疫病菌接種前と、疫病菌接種24時間、48時間および72時間後に、各種薬剤を散布した。調査方法③疫病菌接種6日後の発病度から防除率を算出した。

病が発生した後で散布しても、疫病の進展を抑制できることを示しています。しかし、接種72時間後には薬剤の防除効果が低下することから、まずは疫病を発生させないように予防散布に努め、感染したらできるだけ早く治療効果がある薬剤を散布することが重要です。
(県農林技術開発センター・渡邊巨)